

意見を言ってくれる人を大切に

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田中 宏



歳を取るほど、地位が高くなればなるほど、人は意見を言われることを苦痛に感じる場合があります。

イエスマンを自分の周りに置きたがるリーダーは組織を衰退させ、意見を言ってくれる人を周りに置くことができる組織は活性化します。

つまり、リーダーは意見が言える雰囲気を作ることが大切ですし、意見を言われてもそれを受け入れる度量が必要です。

私が30歳半ばの頃、乳腺関係で全国の学会や講演で飛び回っていたころ、乳腺超音波に関する認定講習会を受講した時のことです。もちろんその時、私は生徒として受講していたのですが、受講している時に強い違和感を抱いたのを記憶しています。その感じた違和感について、自分なりに分析しました。

これまで、講演などで教える立場にいた自分が、教わるという立場に違和感を感じたのです。つまり、人として横柄になりかけていたということに気付かされました。

また乳腺の検査に対して自信と強いこだわりを持ってモダリティを担当させていただいたころは、現行の運用方法を変えるのに強い抵抗感を覚えたことがあります。つまり、自分が進歩を止めていたことに気付かされました。

私は猛省し、自分を戒め修正しました。

著名な先生が、勉強会や学会で受講される時、

とても真摯に聴講されている場面を多々拝見したことがあります。

人格的に尊敬できる方は、普段は教える立場でも、ある分野で自分よりも知識を有する人から教わる時は、相手を先生として敬い、自分の知識を素直に高めることができるものです。

では、意見を言いやすくする雰囲気はどのように作るのか。私は会議、または個人的にも「どう思う?」「どうしたらよい?」

を口癖にしています。すると、自分にはない発想が意外に多かったことに気付かされます。そうすることで、自然に意見を言ってくれる雰囲気に変わります。

もちろん、提案通りに進めるときもありますが、そうでないときもあります。自分の意見を通す場合には、必ず理由を説明し、納得してもらいます。つまり説明責任です。その最終決断は自分が責任を持つことは言うまでもありません。

人は歳をとるほど、偉くなるほど、人の意見は聞かなくなり、成長が止まり、さらにはイエスマンを周りに置き、組織を衰退させます。その横柄になりかけている自分の心にアンテナを立て、周りの意見に耳を傾けるように心掛けることで、人は成長し続け、組織も活性化します。

それは、もしかすると、友人関係、家庭内でも同じかもしれません。